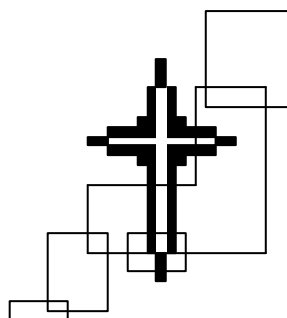


日本のための とりなし



わが国のために祈りましょう
ニュースレター 4月号
2005年4月3日発行

日本のためのとりなしの会	委員長：皆川 尚一(神奈川県)
事務局：〒228-0802	委員：友納 徳治(福岡県)
相模原市上鶴間 6-1-17 皆川方	林田 金弥(神奈川県)
TEL042-747-5703	釘宮 義人(大分県)
FAX042-746-2119	高田和彦(東京都)
http://www.Christ-ch.or.jp/	町田 誠(千葉県)
*振替：00270-7-6421	中原 耕平(千葉県)

日本宣教論序説(第16回)

第二部 キリスト教の土着化

第三章 キリシタンの土着化

皆川尚一

わたしは先に第4回「天主教の渡来」の中で、日本におけるキリシタンの目覚ましい発展と衰退の概略を述べました。しかし、ここではキリシタンがたどった土着化の過程について考察してみたいと思います。後で詳しく述べますが、わたしの先祖はキリシタンでありました。わたしは伊達政宗の領地であった岩手県藤沢町大籠(おおかご)地区での大迫害で生き残ったかくれキリシタンの末裔です。今はプロテスタントの牧師ですが、わたしの中にはキリシタンの血が流れていると思います。三年前の夏、父の郷里藤沢町を初めて訪問してこの事実を知ってから、キリシタンについてのわたしの関心は以前より深くなりました。そしてキリシタンについての知識も少し増えました。四百年前のキリシタンを知ることが現代のわたしたちと深く関わってくると思いますので、先ず迫害の理由から始めたいと思います。

1. キリシタン迫害の理由

宣教師ルイス・フロイスが暴君と呼ぶ豊臣秀吉が「伴天連(ばてれん)追放令」を發したのは、1587年7月24日(天正15年6月19日)でした。これは天正(てんしょう)の禁令として知られる第1回のキリシタン禁止令です。それ以後徳川時代にかけて、次々に發せられた禁止令の理由をまとめると、次の五つに

なるでしょう。

(1) 植民地政策

キリシタンの宣教は西欧諸国の植民地政策と結びついていました。それは、初めに宣教師を送ってその国をキリスト教化し、次に軍隊を送って征服し植民地化するという政策です。秀吉は早くもそのことに気づいて主君信長に注意をうながしています。ポルトガル、スペインのようなカトリック教国は強力な王権をバックに、大航海時代の波に乗ってすばらしく機能的な帆船や、破壊力抜群の大砲を武器として、世界をぐるりと囲む世界帝国を築き上げていました。その帝国が築き上げた植民地や、その植民地をつなぐ海のルートを通して、アジアでの一獲千金を夢見る冒険家たちが、何百、何千とビジネスに飛び出していきました。そうした中にカトリックの宣教師たちも靈魂の救いを目指して、アジアに乗り出して行ったのです。彼らが求めたのは、靈魂の救いだけではなく、経済的利益でもあ

りました。

ザビエルがゴアのアントニオ・ゴメス神父に宛てた手紙から引用すると、

「神父が日本へ渡航する時には、インド総督が日本国王への親善とともに献呈できるような相当の額の金貨と贈り物を携えてきて下さい。もしも日本国王がわたしたちの信仰に帰依することになれば、ポルトガル国王にとっても、大きな物質的利益をもたらすであろうと神かけて信じているからです。堺は非常に大きな港で、沢山の商人と金持ちがいる町です。日本の他の地方よりも銀か金が沢山ありますので、この堺に商館を設けたらよいと思います」(書簡集第93)

「それで神父を乗せて来る船は胡椒をあまり積み込まないで、多くても80バレルまでにしなさい。なぜなら、前に述べたように、堺の港についた時、持ってきたのが少なければ、日本でたいへんよく売れ、うんと金儲けが出来るからです」(書簡集第9)。

ザビエルはポルトガル系の改宗ユダヤ人(マラーノ)だけあって、金儲けには抜け目ない様子が、手紙を通じても窺われます。ザビエル渡来の三年後、

ルイス・デ・アルメイダが長崎に上陸しました。この人も改宗ユダヤ人で、ポルトガルを飛び出してから世界を股にかけ、仲介貿易で巨額の富を築き上げましたが、なぜか日本に来てイエズス会の神父となりました。彼はその財産をもって宣教師たちの生活を支え、育児院を建て、キリシタン大名の大友宗麟に医薬品を与え、大分に病院を建てました。

(2) 奴隷売買

しかし、アルメイダが行ったのは、善事ばかりではなく、悪事もありました。それは奴隷売買を仲介したことです。わたしはここで、鬼塚英昭著

「天皇の口ザリオ」pp. 249～257から、部分的に引用したいと思います。

「徳富蘇峰の『近世日本国民史』の初版に、秀吉の朝鮮出兵従軍記者の見聞録がのっている。『キリシタン大名、小名、豪族たちが、火薬がほしいばかりに女たちを南蛮船に運び、獣のごとく縛って船内に押し込むゆえ

に、女たちが泣き叫び、わめくさま地獄のごとし』。ザビエルは日本をヨーロッパの帝国主義に売り渡す役割を演じ、ユダヤ人でマラーノ(改宗ユダヤ人)のアルメイダは、日本に火薬を売り込み、交換に日本女性を奴隷船に連れこんで海外で売りさばいたボスの中のボスであった。

キリシタン大名の大友、大村、有馬の甥たちが、天正少年使節団として、ローマ法王のもとにいったが、その報告書を見ると、キリシタン大名

の悪行が世界に及んでいることが証明されよう。

『行く先々で日本女性がどこまでいっても沢山目につく。ヨーロッパ各地で50万という。肌白くみめよき日本の娘たちが秘所まるだしにつながれ、もてあそばれ、奴隷らの国にまで転売されていくのを正視できない。

鉄の枷をはめられ、同国人をかかるといふ遠い地に売り払う徒への憤りも、もともとなれど、白人文明でありながら、何故同じ人間を奴隷にいたす。ポルトガル人の教会や師父が硝石(火薬の原料)と交換し、インドやアフリカまで売っている』と。

日本のカトリック教徒たち(プロテスタントもふくめて)は、キリシタン殉教者の悲劇を語り継ぐ。しかし、かの少年使節団の書いた(50万人の悲劇)を、火薬一樽で50人の娘が売られていった悲劇をどうして語り継ごうとしないのか。キリシタン大名たちに神社・仏閣を焼かれた悲劇の歴史を無視し続けるのか。数千万人の黒人奴隷がアメリカ大陸に運ばれ、数百万人の原住民が殺され、数十万人の日本娘が世界中に売られた事実を、今こそ、日本のキリスト教徒たちは考え、語り継がれよ。その勇気があればの話だが」。以上で「天皇の口ザリオ」からの引用を終わります)

わたしはこれまで各種の日本キリシタン史を学んで来ましたが、この「天皇の口ザリオ」を読むまでは、「奴隷」の内容について知りませんでした。しかし、

こういう事実を知ったからには、同じキリスト教徒として真摯な態度で語り継いで行きたいと思います。なお今年の1月30日に、

第5版が発行された、若菜みどり著「クアトロ・ラガッツィ(四人の少年の意)」 天正少年使節と世界帝国 pp. 414~417」に奴隷売買のことが報告されていますが、徳富蘇峰「近世日本国民史豊臣時代乙篇 pp. 337-387」からの引用がなされているにもかかわらず、「火薬一樽につき日本娘50人」の記録は省かれています。そして、「植民地住民の奴隷化と売買というビジネスは、白人による有色人種への差別と資本力、武力の格差という世界の格差の中で進行している非常に非人間的な『巨悪』であった。英雄的なラス・カサスならずとも、宣教師はそのことを見逃すことができず、王権に訴えてこれを阻止しようとしたがその悪は利益をともなっているかぎり、そして差別を土台としているかぎり、けっしてやむものではなかった」(p. 416)と説明して、売られた女性たちの末路の悲惨さを記しています。かなり護教的な論調が目立つ本です。

秀吉は準管区長コエリヨに対して、「ポルトガル人が多数の日本人を奴隷として購入し、彼らの国に連行しているが、これは許しがたい行為である。従って伴天連はインドその他の遠隔地に売られて行ったすべての日本人を日本に連れ戻せ」と命じています。

(3) 巡回布教

更に秀吉は、「なぜ伴天連たちは地方から地方を巡回して、人々を熱心に煽動し強制して宗徒とするのか。今後そのような布教をすれば、全員を支那に帰還させ、京、大阪、堺の修道院や教会を接收し、あらゆる家財を没収する」

と宣告しました。。

(4) 神社仏閣の破壊

更に彼は、「なぜ伴天連たちは神社仏閣を破壊し神官・僧侶らを迫害し、彼らと融和しようとししないのか」と問いました。神社仏閣の破壊、焼却は高山右近、大友宗麟などキリシタン大名が大々的にやったことです。これは排他的唯一神教が政治権力と結びつく時、必然的に起こる現象でしょうか。

(5) 牛馬を食べること

更に彼は、「なぜ伴天連たちは道理に反し

て牛馬を食べるのか。馬や牛は労働力だから日本人の大切な力を奪うことになる」と言いました。

以上秀吉からの五つの詰問にたいする、コエリヨの反応は極めて傲慢で、狡猾な、高をくくった返答でした。高山右近を初め多くのキリシタン大名たちはコエリヨを牽制しましたが、彼は彼らの制止を聞き入れず、反って長崎と茂木の要塞を強化し、武器・弾薬を増強し、フィリピンのスペイン総督に援軍を要請しました。これは先に巡察使ヴァリニャーノがコエリヨに命じておいたことでした。しかし、かれらの頼みとする高山右近が失脚し、長崎が秀吉に接收されるという情勢の変化を見てヴァリニャーノは、戦闘準備を秀吉に知られないうちに急遽解除しました。これらの経過を見れば、ポルトガル、スペイン両国の侵略政策の尖兵として、宣教師が送られて来たという事実を認めるほかないでしょう。

これらの疑問は豊臣時代だけでなく、徳川時代300年の間においても、キリシタンは危険であり、キリシタンになればどんな残酷な迫害を受けるかわからないという恐怖心を日本人全体に植え付けることになり、キリスト教の日本への土着化を妨げる要因になったと言えるでしょう。

2. キリシタンの殉教と潜伏

以上のような政治的、宗教的な陰謀や悪事があったにもかかわらず、純真・素朴なデウス、イエズス、聖霊、マリアへの信仰を持つキリシタンたちが、日本全国に生まれました。1549年から1630年までの80年間にキリシタンとなったものは、76万人に達したと推定されています。当時日本の人口は約1230万人でしたから、キリシタンの人口比は約0.6パーセントになります。その分布の範囲も、北は北海道から、南は沖縄まで広がっています。異国の宗教で絶対唯一神教の天主教が仏教寺院や天皇・公家階級の反対と圧迫を受けながらも、短期間のうちに信者を獲得し、教勢を拡大し、日本の有識者

層を初め、土農工商の中へと浸透して行きました。こうした状況の中でキリシタンに対する組織的大迫害と殉教の波が押し寄せました。以下の通りです。

1587年 秀吉、伴天連追放令、長崎の公館・教会堂等接收。

1597年 長崎にて26聖人殉教

1614年 家康、キリシタン全国的追放令、高山右近マニラへ追放

1619年 京都大殉教

1622年 長崎大殉教

1623年 江戸大殉教

1633～34年 日本鎖国令、5人組制度による全国民の監視体制。

1637～38年 島原の乱にて、原城で信徒2万7千余人殉教

1614～68年 全国各地で潜伏キリシタンの摘発、拷問、死刑続く。

1790～1870九州浦上で四度にわたる摘発(通称「崩れ」)があった。

明治政府になってからも摘発があり、流刑(各藩預け)3394名。そのうち613名拷問死。1873年浦上信徒流刑地より解放帰還。

宣教師たちは追放されても、潜伏したり、再潜入したり、あるいは新規潜入を続けて潜伏信徒たちを司牧しましたが、大多数は殉教、少数は背教という形で、姿を消して行きました。

又、約250年にわたる迫害の中で、生き残った信徒にできることは、背教か、潜伏かのどちらかでしたが、潜伏キリシタンたちはどのようにして迫害をしのいだでしょうか。

徳川幕府は全国に寺請(てらうけ)制度をもうけました。これは全国民を仏寺所属の信徒として登録させて取り締まる制度です。キリシタンも自分と家族の名前を仏寺に登録しました。もちろん偽装のためです。又、各信徒の家の仏壇に仏像を祀りましたが、仏像にはキリストやサンタ・マリアの名をつけ、どこかに十字架やキリシタンの象徴を秘密裡に印しました。

さらに幕府は5人組による相互監視、密告制度をもうけ、密告者には懸賞金が与え

られましたが、組全体がキリシタンの場合は秘密が守られました。

絵踏(えぶみ)は、イエズス様や聖母マリア様の聖画を踏ませることによって、信仰の有無を判断するという、日本独特の制度でした。キリシタンたちは、あらかじめ足を洗って、なるべく軽く御絵を踏み、家に帰ってからコンチリサン(痛改)のオラショ(いのり)を唱えて罪の赦しをデウスに祈りました。

このようにして、潜伏を続けて、ついに明治維新を迎えた大多数の潜伏キリシタンたちは、カトリック教会に復帰しました。しかし、教会への復帰を転向と考えて、先祖代々守り続けてきた教えを信仰し続けた者もかなりいたのです。こうした信徒たちは「かくれキリシタン」と呼ばれ、今日まで長崎地方に存在しています。

3. かくれキリシタン

潜伏キリシタンがかくれ続けることが出来た理由はほかにもあります。

地下組織

例えば浦上の地下組織は、信徒が自発的に作ったものです。惣頭(そうかしら)、触頭(ふれがしら)、聞役(ききやく)。別の名称で、帳方(ちょうかた)、

水方(みずかた)、聞役というのもあります。帳方は一つの組のまとめ役です。水方は洗礼を授ける役です。別の名称では、組を垣内(かきうち又は、つもと)と呼び、ご神体を祀る家の主人を親父役(おやじやく)、または、ご番主(ばんぬし)と呼び、洗礼を授ける人を御爺役(おじじやく)と呼びます。

ご神体

かくれキリシタンの主な信仰対象は以下のようなご神体と、殉教者にまつわる伝説に裏付けられた聖地です。

ご神体とは、メダイ、お掛け絵、お札様、お水瓶、コンタツ(口ザリオ)、十字架、青銅像、一文銭、石などです。殉教者の聖地で祈ることも信仰の火を燃え立たせました。

オラショ(いのり)

キリシタン時代に宣教師たちから教えられ

た祈りの言葉は、潜伏時代も連綿として受け継がれて、今日にいたっています。これらはオラシヨまたはゴシヨウと呼びます。オラシヨは昔はかならず暗唱しなければならないものとされ、春の悲しみの期間(カトリックでは四旬節、プロテスタントでは受難節)の46日の間に、師匠から教わりました。オラシヨの文句は日本語以外に宣教師が伝えたラテン語やポルトガル語からのものがあり、これらは長い潜伏の間に意味がわからなくなり、今では、ただの呪文として唱えられているものもあります。お授け(洗礼)、や戻し方(葬式)などの時にのみ唱えられるものもあります。山田に伝わる「サンジュワン様の歌」や、「ダンジク様の歌」は行事のあとの宴席で歌われる特別なオラシヨです。このほかに、安産の祈り、病氣平癒の祈り等人生儀礼に関わるものがあります。

教会暦に準じた年中行事の暦

これらは長くなりますので此处では省略することにしますが、信仰生活を保ち、信仰の火を燃え立たせるのに非常に重要な行事でありました。

かくれキリシタンたちは、「やがてコンヘソー口がやってきて、毎週でもコンヒサンができる。大声でオラシヨを唱えられる日が来る」というバスチャンの予言を信じて待ち続けて来たはずなのに、どうして教会に復帰しないのか、その理由はいくつか指摘されています。

厳しい宗教統制を受けて仏教を隠れ蓑とした形をそのまま受け継ぐのが祖先の信仰の正しい継承であるという考え方。祖先崇拜と結びついている。

正統なカトリック教会への復帰が祖先の願いであったことが忘れられた。

オラシヨの忘却、洗礼の消滅など宗教性の希薄化。

かくれキリシタン集団は一つの社会組織になっていて、個人としては復帰したいけれども、集団の制約に阻まれているか、あるいは集団を離れたくないという心理が残っているから。

結語

これまで主として長崎地方に残っているかくれキリシタンの特徴を述べて来ましたが、他の地方においても色々な形でキリシタンの信仰が子孫に伝えられていると思われます。例えば、わが皆川家では本家に仏壇はありますが、「皆川家先祖代々之霊位」という大きな位牌があるだけで、いっさい偶像をおいてはならないという家憲があります。また「旅人をねんごろにもてなせ」という聖書の教えも含まれています。また祖父の実家の及川家には、仏壇の下に家宝が収められていて、隠れキリシタンの仏像があり背後に黄金の十字架が描かれています。しかし、信仰は継承されず現在の当主は共産党員です。それにもかかわらず、及川家からは二人の牧師、皆川家からはひとりの牧師がでているのですから、先祖の祈りの実が結ばれていると言えるでしょう。

また、かくれキリシタンは仏教、神道とキリシタンとの習合だという見方もありますが、御親(おんおや)デウス、御身(おんみ)ゼズス、御母(おんはは)サンタ・マリアへの思慕が信仰の中核を占めているのですから、習合宗教になったとは断定できないと思います。むしろ、日本的風土の中に土着化したひとつの形態として、積極的に捉えて行く道もあるのではないのでしょうか。

参考文献

「日本キリスト教史」五野井隆史著 吉川弘文館

「日本キリシタン殉教史」片岡弥吉著 時事通信社

「かくれキリシタン」---歴史と民俗--- 片岡弥吉著

「かくれキリシタンの聖画」中城 忠、谷川健一共著 小学館

「天皇の口ザリオ」鬼塚英昭著 2004年11月28日刊

「クアトロ・ラガッツィ」---天正少年使節と世界帝国---若菜みどり著 集英社

「浦上切支丹史」浦川和三郎著 全国書房

「日本史」フロイス著 1~12巻 中央公論社

地域別とりなし祈禱会

1. 北海道

札幌市 : キリスト公会 札幌グレイス教会 皆川尚一牧師
〒001-0032
札幌市北区北 32 条西 5-3-27
TEL 011-717-1801

2. 岩手県

水沢市 : ザ・リバイバル・東北祈りの家 高橋範明
〒023-0813 水沢市中町 26 レストラン・プレイズ
TEL 0134-62-3561 毎月第 3 日曜日 午前 7 時 00 分

3. 埼玉県

蕨市 : 蕨とりなし祈禱会 鷺谷世嗣兄
〒335-0003 蕨市南町 3-3-12
TEL0484-42-0967 毎月祝祭日午後 2 時

4. 東京都

東京都内 : 東京中央とりなし祈禱会 皆川尚一牧師
* 会場 早稲田奉仕園セミナーハウス(東京都新宿区西早稲田 2-3-1)
* 連絡先 〒228-0802 神奈川県相模原市上鶴間 6-1-17 皆川尚一牧師
TEL042-747-5703、FAX042-746-2119 毎月第 4 月曜日午後 6 時 30 分~9 時

東京祈禱会 山浦もと姉
* 会場 キリスト教婦人矯風会館 B - 1(新宿区百人町 2-23-5)
* 連絡先 〒350-0812 埼玉県川越市下小坂 612 主の園 3-25 山浦もと姉
TEL0492-34-7049,FAX0429-31-5552 毎月第 1 月曜日午後 1 時 30 分

5. 神奈川県

相模原市 : キリスト公会相模大野教会 皆川尚一牧師
〒228-0802 相模原市上鶴間 6-1-17
TEL 042-747-5726,747-5703 FAX 746-2119
URL <http://www.Christ-ch.or.jp/>
毎月第 2 木曜日午前 10 時 15 分

6. 長野県

小県郡 : 丸子町キリスト教会 松吉理枝子牧師
〒386-0404 長野県小県郡丸子町上丸子川原 1710 - 1
TEL 02684-2-5264 毎週水曜日午後 7 時 30 分

7. 静岡県

静岡市 : リビングウエイ・チャーチ リッキー・ゴードン師
〒420-0841 静岡市上足洗 4 丁目 6-16-7
TEL 054-248-4058 毎月第 1 日曜日午後 2 時

8. 京都府

京都市 : キョート・プレイヤーグループ シスター・ローズマリー・バス
〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル カトリック会館 3F
TEL 075-781-3330 毎週火曜日午後7時 英語の祈禱会

9. 兵庫県

高砂市 : 日本キリスト教団 高砂教会 手束正昭牧師
〒676-0015 高砂市荒井町紙町 1-34
TEL 0794-42-4854 FAX 42-4878 毎月第4水曜日午後9時30分~12時

10. 福岡県

福岡市内 : 伊都キリスト教会 友納徳治牧師
〒819-0167 福岡市西区今宿井尻 12-4-1
TEL 092-807-9080、FAX 807-2298 毎月第3水曜日 7時30分

11. 大分県

別府市 : フルゴスペル イエス・キリスト教会 永野誠治牧師
〒874-0933 別府市野口元町 10-1
TEL & FAX 0977-26-3692
e-mail: fg.jesus@poppy.ocn.ne.jp
毎週金曜日午後7時30分



2005年4月号祈りの焦点

(1)継続的課題

1)公明党が連立政権から外され、政界におけるその勢力が著しく減退するように。

又、自民党が見識を取り戻して創価学会に頼らなくなるように祈りましょう。

〔解説〕

*創価学会名誉会長池田大作氏は昨年末から新年にかけて健康回復と伝えられましたが、3月3日八王子市の牧口記念会館で開催された重要な大会に体調不良のため欠席しました。学会幹部の間では、後継者問題を真剣に考慮しているようです。(週刊新潮3月24日号参照)

2)カルト集団からの脱会者がキリスト教会に来て救われるように。

*訂正:前回「エホバ証人の病気の子供」と書いたのは誤りで、「交通事故に遭った子供」と訂正します。

3)天皇陛下が主イエス・キリストに在って救われ、大いに祝福され、その祝福が遍く日本国民の上に及びますように。また、天皇陛下が世界の諸国民の中にあって、祝福の基として用いられますように。そして、国民が天皇陛下を先達として理解し、尊敬して、国際平和のためにつくすように祈りましょう。

4)互いに批判し合い、反目し合ってきたキリスト教会とユダヤ人、カトリック、プロテスタント、そしてペンテコステ、および各教派・各教会の間に、悔い改めと和解が起るように。

5)キリスト教の音楽伝道が進展するように祈りましょう。

〔解説〕

*キリスト教音楽にも色々なジャンル(様式)があります。

- ・礼拝・ミサなどにおける奏楽や讃美(これは最も基本的なもの)
- ・伝道集会での讃美演奏(ゴスペル歌手の森祐里、高砂教会の和琴の演奏楽団など)
- ・コンサート(テノール歌手で全盲の新垣勉)

(日本イエス・キリスト教団神戸中央教会の「アンサンブル・シオン」楽団とサクソ奏者井上麻子)(その他)

*日本キリスト教団立川教会では、ジャズドラマーの高田光比古(たかたてるひこ)氏による演奏会を開催しています。「こうした演奏会は定例化することが大切」と同教会の高田和彦(やすひこ)牧師は語っておられます。

6)TV・ラジオ・新聞・雑誌関係者たちがおごりと偏った報道や人権無視の取材を止め、神を畏れたフェアな在り方をするように。これらに気付いた人が抗議や訂正の声をあげ、日本の見張り人の役を果たすように祈りましょう。

〔解説〕

*NHKの不正経理に対する国民の批判により、受信料不払いは70万人に達したといわれますが、不正経理問題だけでなく、放送内容についても偏向があります。例えば、進化論についての誤り。韓流ブームの意図的な盛り上げ。その他です。

7)日本に亡国の危機をもたらす少子化傾向がくい止められ、神の御心にかなった増子化対策が社会全体の祝福によって実施されるように祈りましょう。

「神は彼らを祝福して言われた、《生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ》」(創世記 1:28)。

〔解説〕

- * 少子化対策における結婚支援については、全国市町村のほぼ半数が取り組んでいますが。厚生労働省の外郭団体「こども未来財団」の調査によれば、地方では効果があるけれども、都市部では効果は少ない。結婚支援の内容は、無給の結婚相談員を置く、結婚相談員の研修や学習支援、結婚の祝い金や記念品を贈呈、パーティーなどの出会い事業をする、などとなっています。
- * 児童手当は現在小学校三年生までとなっていますが、もっと引き上げられることが望ましいと思われまます。

8) 日本のために祈る「とりなし者」が増えるように祈りましょう。

* 北海道から沖縄まで、あらゆる市区町村にひとりずつ「とりなし者」が起こされるように。

(2)時宜的(タイムリーな)課題

1)小泉内閣が神を畏れ、国民の意向を無視した独裁的な政権運営を改め、日本の独立と国際平和に役立つ政治を行うように祈りましょう。

〔解説〕

- * 郵政民営化は、郵政事業を国際金融資本に売り渡す道を開くため(換言すれば日本国を売るため)の法案ですから、これが絶対に採択されないように祈ること。そして逆にこれが小泉内閣の命取りになるように祈りましょう。
- * アメリカは条件付きで日本を準軍事大国にしようとしています。その条件とは、「日本が平和憲法を維持すること」です。そうすれば、日本は自国を守るために自衛隊を動かすことができず、新防衛大綱によって、米軍の尖兵(せんぺい)となって戦うほかならないからです。アメリカが日本に課した憲法9条は、「日本をアメリカの軍事覇権下に置くこと」と「日本の安全を日本の国権の発動によって守らせないこと」を目的にしているのです。日本の政治がことごとく「ゴマカシ」に見えるのは、主権がないのにあるかの如く振舞わざるを得ないからです。この構図が変わらなければ誰が首相になっても同じでしょう。

2) 日本国民全体の中にキリストの福音が広く深く受け入れられて行くように祈りましょう。

〔解説〕

- * そのためには、わたしたちクリスチャンがキリストにあって霊的に向上し、喜びの人、讃美の人、感謝の人となり、愛と奉仕のわざに励んで家族や地域社会の人々から愛され、尊敬されるようになることが大切ではないでしょうか。

3) 国会祈祷会に聖霊の導きが与えられるように。

4) 北朝鮮による拉致問題の解決があくまでも外交上の最優先課題とされ、拉致被害者の家族が日本に帰って来るように。又、北朝鮮の核準備が取り除かれるように。

〔解説〕

- * 北朝鮮から持ち込まれた「あさり」を日本の業者が「日本産」と偽装せず、良心的に「北朝鮮産」と明記するように。また、北朝鮮産のあさり不買運動が成果をあげるように。

5) 北朝鮮における金正日の独裁体制が崩壊するように祈りましょう。

〔解説〕

* 国民新聞（平成 16 年 12 月 25 日付）によれば、韓国紙・朝鮮日報（12 月 2 日付）は北朝鮮を脱出した同国の党・軍関係者が亡命政府をつくる構想を進めていると報じました。11 月中旬、一部の関係者が東京で「反金正日国際会議」を開き来年（2005）春の日本での樹立に向けて計画策定に入ったとされます。亡命政府の代表には 1997 年に韓国へ逃れた黄長華（ファン・ジョンヨプ）元労働党書記が就任するものとみられます。

（註）黄長華=ファン・ジョンヨプ。「華」の字は当て字。正しくは、「火へんに華」と記す。

* 国民新聞（平成 17 年 2 月 10 日付）によれば、北朝鮮国内に「自由青年同志会」という反体制グループがあり、同会が秘密撮影したビデオテープが韓国で公開されたということです。

6) ゆとり教育の見直しが極端にならないように祈りましょう。

〔解説〕

* ゆとり教育が学力の低下を招いていることに対する反省として、文部科学省はゆとり教育の見直しを打ち出しています。これは良いことだと思いますが、土曜日の復活、夏休みの短縮など、極端にならないように祈りたいと思います。

7) 青少年にもっと耐性が身につくように祈りましょう。

* 今の青少年にはひ弱さが目立ち、困難に耐える力が不足しています。これには、家庭生活での過保護、飲食の偏り、その他色々な原因が考えられます。

8) 日本の農業の自給率が上向きになるように祈りましょう。

〔解説〕

* 2 月 20 日の東京新聞によれば、食生態学研究所々長西丸震哉(しんや)氏が「これからの先進国は農業国である。工業は後進国にまかせる。ただし、これからの農業は江戸時代の方式ではだめで、会社組織でやるべきだ」とのべています。また、2 月 23 日の東京新聞によれば、自民党の大物議員(福田、堀内、野呂田、金子の諸氏)が「農業問題を考える会」という勉強会を始めたそうです。

* 2 月 1 日の産経新聞は、お隣りの中国(支那)では、昨年農業が衰退して、農産物の輸入国に転落したと報じています。

9) 日本の経済が上向くように。又、米国資本に邦銀や郵便事業を売り渡す小泉・竹中政権の野心が打ち砕かれるように祈りましょう。

10) 外国人地方参政権付与法案が否決されるように祈りましょう。

〔解説〕

* 公明党が提出したこの法案を同党は今の通常国会の会期中に何が何でも成立させたいという意気込みです。国会の審議に注目して、否決されるように祈りましょう。

11) イスラエルの平和のために祈りましょう。

「見よ、イスラエルを守る者は、まどろむこともなく、眠ることもない」（詩篇 121:4）

〔解説〕

* 3 月 19 日のしんぶん「赤旗」によれば、パレスチナ 13 組織代表がイスラエルとの停戦を延長することを中心内容とした最終声明を 17 日に発表しました。そしてイスラエルのシャロン首相はこれを歓迎し、それと同時にテロ組織の武装解除を求めることを表明しました。

《会計報告》(2004年12月1日～2005年1月31日)

(単位 = 円)

収 入	金 額	支 出	金 額
献 金	78,500	交 通 費 印 刷 費 資 料 費 郵 送 費 事 務 費 振替手数料 電 話 料 会 場 費	1,860 0 13,300 30,640 2,420 330 7,807 11,760
小 計	78,500	小 計	68,117
前月繰越	81,359	翌月繰越	91,742
国内活動基金 収入	0	国内活動基金 支出	0
前月繰越金	15,700	翌月繰越金	15,700
国際会議参加基金 収入	0	国際会議参加基金 支出	0
前月繰越金	35,474	翌月繰越金	35,474
合 計	211,033	合 計	211,033

【献金者芳名】(順不同)

相模大野教会(神奈川県)	2回	東京中央とりなし祈禱会席上献金	2回
札幌グレイス教会(北海道)	2回	栗村玉恵(北海道)	1回
佐藤節代(神奈川県)	1回	人見祥子(神奈川県)	1回
広瀬幸司(千葉)	1回		
高砂教会(兵庫)	1回		

【編集後記】

* 2005年4月号のニュースレターをお送りします。今回のレポートは、「キリシタン」の土着化を取り上げました。それは委員会で、「潜伏キリシタンや、かくれキリシタンがどうなって行ったのかを、もっと詳しく知りたい」との要望が出たからです。

* 「かくれキリシタン」の土着化については、まだ書き足りない感じがしますので、次号で更に秦氏との対比という形で取り上げて見たいと思います。

* 日本のために祈る「とりなし者」が北海道から沖縄まで、あらゆる市区町村にひとりずつ起こされるように、お祈りください。先日(2月14日)愛知県K市のY姉が「ホームページで見ました。ニュースレターを送って下さい」と電話で申し込んで来られました。とても嬉しかったです。口コミでこの輪が広がるように願っています。

* 自然の世界では、天変地異がますます盛ん

に現れています。今度は3月20日(日)礼拝の最中に福岡県西方沖地震が起こりました。しかし、福岡の伊都キリスト教会は無事でした。感謝!

* 「神はわれらの避け所、また力である。悩める時のいと近き助けである。このゆえに、たとい地は変わり、山は海の真中に移るとも、われらは恐れぬ」(詩篇46:1~2)。

(ヨハネ 皆川尚一記)

《次回日本にとりなし委員会予告》
日時：2005年4月18日(月)12時
場所：キリスト公会 相模大野教会

